

JRふれあいハイキング

とっておきのコースと好古園で紅葉を堪能 姫路城下、錦秋に包まれるまちなか歩き

① 十二所神社

社伝によると、延長6年(928)、疫病の流行に里人が大変苦しんでいたところ、一夜にして12本の蓬(モギ)が生えた。そこに、少彦名神(スナヒコノカミ)が現れ、この蓬で疫病を治癒すべしとの神託があった。神託通りにすると里人の病は癒え、感謝した里人が少彦名神を南畝町字大將軍に祭祀した。その後、安元元年(1175)、姫路城・裏鬼門にあたる現在地に移った。<ウィキペディアより>



<十二所神社>



<十二所神社の鳥居>

② お菊神社

お菊を祀ったと伝わる神社が、姫路城の南西に位置する十二所神社内の「お菊神社」だ。由緒を記した看板や石碑には、姫路城主小寺則職(ノリト)の奥女中、お菊が逆臣青山鉄山のお家横領の陰謀を内通し、小寺家の家宝の皿を隠されて罪を着せられ責め殺されたと書かれている。真偽の程は判らない。<日経新聞・もっと関西より>



<お菊神社の看板>



<お菊神社>

③ 大蔵前公園

この付近に姫路藩の牢屋や処刑場があった。江戸末期、姫路藩は動乱の渦に巻き込まれ、佐幕派と勤皇派が激しく対立。元治元年(1864)、尊皇攘夷派の志士・河合惣兵衛ら同志8名は、佐幕派の姫路藩に捕えられ処刑された。世に「甲子の獄」(カシノコ)という。大正5年、獄舎・処刑場の跡に記念碑を建立。<地域資源全リスト「以後(a.)と言う」より>



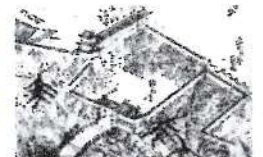
<勤王志士終焉之地記念碑>

④ 備前門跡

姫路市の発掘調査で「備前門」の石垣跡が確認された。備前門は大天守の南西約1.2kmにあり、船場川と外堀が分岐する「外出輪」に位置していた。西国街道に繋がる出入り口にあたる。右の絵図は、文政6年(1823)の絵図に描かれた備前門。



<現在の備前門跡>



<備前門の絵図・姫路市>

⑤ 白鷺橋

昭和初期、姫路城の中堀を埋めて国道2号を建設する際、白鷺橋が船場川に架けられた。そして、姫路大空襲で被災するも、国道2号拡幅工事のとき(昭和49年)、焦げ跡の残る白鷺橋の欄干をそのまま使用して平成3年に竣工した。<参考(a.)>



<白鷺橋>



<空襲の痕跡>

⑥ 西国街道

西国街道は、京・大阪より姫路城下を通り、中国・九州方面に通じる主要街道で、福中門から北上し龍野町を通っていた。往時は、姫路で一番賑わった街道筋であった。龍野町辺りは、町家が点在し姫路初の商店街の面影が残る。<参考(a.)>



<標石>

⑦ 千姫小径

船場川と姫路城の堀の間に遊歩道が設けられ、清水橋から白鷺橋の間をつないでいる。多くの桜の木が植えられており、春には桜が咲き誇っている。<参考 (a)>



<千姫小径と中濠>



<千姫像>

⑧ 千姫天満宮

男山千姫天満宮とも呼ばれ、姫路城の北西に位置し、姫路城を一望する男山の中腹にある。小さな社で、元和 9 年(1623)、本多忠刻(タクト)と再婚した千姫が本多家の繁栄を願い建立



<千姫天満宮>



<千姫羽子板>



<千姫>

した。千姫が城内の百閒廊下(西の丸)から、朝夕に千姫天満宮を遥拝(ヨウハイ)出来るよう、あえて東向きに造営したと伝わる。平成 14 年に社殿が新築され、唐破風造りの流麗優美な姿になった。<参考 (a)>

⑨ 男山天満宮

興国 6 年(1345)、鎮守社として姫路城を築いたと伝わる赤松貞範が京都・石清水八幡宮より勧請し鎮座している。その後、正徳 6 年(1711)、城主・榊原政邦によって新社殿が建立される。石鳥居には武運長久と家の繁栄を願った政邦の銘文が刻まれている。<参考 (a)>



<男山天満宮>

<参考 (a)>

⑩ 男山配水池公園

姫路城が最も美しく見えるビューポイント「世界遺産・姫路城十景」の一つに選ばれている。姫路城の西側にある標高約 57m の男山にあり、約 200 段の階段を登ると、目前に大天守、三つの小天守を含めた連立式の天守群を望むことが出来る。



<姫路城十景>



<連立式天守を望む>

この配水池は、昭和 4 年(1929)、市内八代字町裏から送水された水道水を市街地へ配水する姫路市で最も古い配水池。長さ約 23m、幅約 22m のものが 2 室からなり、有効水深 30m で 3,000 m²の水を貯えられる。<JR おでかけガイドより>

⑪ 清水門

西側北方の虎口にあり、「鷺の清水」によりその名が付いている。船場川内側の北から来た堀と南の三角形の堀との間に柵形を形成し内と外に門を構えた。外門は橋の内にあつて西向きになり、内門は南向きになっていた。<参考 (a)>



<清水門図>



<清水門>

⑫ 勢隠(セウケン)の紅葉

清水門から北勢隠門を入ると、「勢隠堀」と「中濠の土塁」の間で、11 月末頃、見事に色づいた紅葉を見ることが出来る。



<勢隠の紅葉>



<北勢隠門>

⑬ 姫路城西御屋敷跡庭園 好古園

「好古園」は、市制百周年を記念して築庭された約 1 万坪の池泉回遊式・日本庭園で「文化財の保全と活用」を兼ねた新しい文化の場として平成 4 年 4 月 29 日に開園した。整備に先立ち 7 次わたって発掘調査を実施したところ、元和 4 年(1618)に本多忠政が造営した西御屋敷・武家屋敷・通路跡等の遺構が確認された。これは酒井家時代の「姫路侍屋敷図」に記されたものとほぼ合致している。<好古園 25 周年記念誌より>



<好古園内・築地塀>

- 特集 じゃらん「庄巻の絶景紅葉ランキング」<令和4年10月26日MBS毎日放送より>

第1位 「9つの庭園に映える 兵庫・好古園」が選ばれた。

第2位 山形・蔵王ロープウェイ 第3位 愛知・香嵐溪

第4位 新潟・苗場ドラゴンドラ



<好古園・築地塀>

- 御屋敷の庭（屋敷門）

「御屋敷の庭」は、姫路城西御屋敷跡に位置する好古園で最大の池泉回遊式庭園(オウゴンキョウテン)。

好古園入口から途中で折れ曲がったアプローチを経て、軒丸瓦に榊原家の家紋(御所車)を据えた風格が



<屋敷門>



<屋敷門内>

漂う「屋敷門(薬医門・ヤクイモン)」に辿り着く。この門は、「御屋敷の庭」の入口にあたり、ここから、実に素晴らしい庭園を鑑賞することができる。秋の紅葉は、この辺りから潮音齋にかけて特に素晴らしい。姫路を訪れた観光客にとって見過ごすことの出来ない庭園となっている。

- 御屋敷の庭（渡り廊下）

活水軒を通り過ぎると潮音齋(チウオンサイ)へ繋がる唐傘割工法(カラサリコウホウ)の「渡り廊下」が目飛び込んでくる。観光客は、この絶景を見た瞬間、一様に感嘆の声を上げる。見事の一言に尽きる。渡り廊下の最大の特徴は、唐傘割



<唐傘割工法・渡り廊下>

工法による中央径間(ケイカ)の綺麗な曲線にある。径間とは、アーチの両端における支点間の距離。通常、好古園のような唐傘割工法の渡り廊下は、廊下を歩いた時、太鼓に似た音が響くらしい。

- 御屋敷の庭（潮音齋）

ようやく、好古園の主たる庭園・「潮音齋」(チウオンサイ)に着いた。潮音齋は、姫路城と姫山樹林帯を借景とした池泉回遊式日本庭園で、中でも観庭台(カテイダ)からの眺めが最高。

観庭台の前に広がる大池は、瀬戸内の風景をイメージして作庭され、池越しの中央に一段と目を引く大滝を設け、壮観な庭を形成している。潮音齋正面の築山から流れる大滝の規模は、高さ約3m・幅約6m・毎分約2tの水量。また、滝の上は、木が覆いかぶさるよう作られている。



<観庭台から>



<大滝の紅葉>



<大滝>



<中秋の名月方向>



<大池の鯉>

- 築山池泉の庭

「築山池泉(キヤマチゼン)の庭」は モミジやクロマツなどが映える典型的な日本庭園。池の北側に亀を南側には鶴をイメージした岩島を配している。池上にせり出した茅葺きの四阿(アスマヤ)「臨泉亭(リンゼンテイ)」が風情を醸し出している。



<築山池泉の四阿>

- 茶の庭（双樹庵）

裏千家前家元の千玄室氏の設計・監修により、日本古来の伝統文化「茶の湯」の建築美をコンセプトに設計、京の数寄屋造りの匠を結集した本格的茶室。八畳の広間・四畳半の小間・三畳台目の小間など3つの茶室がある。世界遺産・姫路城の天守に礼を尽くすと言う心のあらわれから、建物ならびに3つの茶室が姫路城天守に向かって設計されている。<参考・双樹庵パンフレット>



<双樹庵>